

いろいろな「物差し」で 社会を「見える化」しています

統計局統計調査部消費統計課
物価統計室物価解析第一係長

大澤 朗子

意外と身近な存在？

私は現在、総務省で「消費者物価指数」という統計の作成に携わっています。新聞やニュースなどで目にされた方もいると思いますが、消費者物価指数は、小売物価統計調査で調査された約 500 品目の価格を用いて、全国の世帯が購入する各種の商品の価格の平均的な変動を指数値として毎月公表されています。

指数というと何だか難しいように感じられるかもしれませんが、例えば、スーパーなどでキャベツが先月より高くなったから別の野菜を買おうとか、旅行代理店に行ったらツアーパックが昨年より安くなっていたので今年行ってみようかなど、私たち消費者は無意識に過去の値段と比較しながら、商品を購入していることがあります。指数は、この日常生活で“なんとなく”感じている商品の平均的な価格の動きを数値化したものですので、実は私たちの生活に密着した身近な指標といえます。

ズームインからズームアウトまで

消費者物価指数は、物価の動きを比較する時点を決めて、その時の物価に対してどの程度上がったか、又は下がったかを比率のかたちで表しています。例えば、近年は家電量販店などでテレビが安価になっており購入された方も多いと思いますが、昨年は地上デジタル放送への移行により需要が減ったことなどの影響で、テレビは前年比で 30.9% 下落しました。また、原油価格の値上がりなどにより、ガソリンや電気代などのエネルギー品目の前年比が上昇しました。全品目の物価の動きを総合した総合指数の前年比は - 0.3% と 3 年連続下落しています。

このように比率で表すと、個々の品目から物価全体の動きまで時系列的にみることができるので、国や地方自治体の行政だけでなく、民間企業などにおいても広く活用されています。

統計という「ものづくり」

総務省では、他にも世帯や企業などに関するさまざまな統計を作成、公表しており、代表的なものとしては国勢調査や経済センサスなどがあります。統計の作成は地道な作業ですが、目的や時代に合わせて調査の内容や作成方法等を見直し、実査から調査データの集計、統計表の作成などの多く工程を経て、社会の現状を統計データという目に見えるかたちにしていく、大変やりがいのある仕事です。これは、道具となる「物差し」を自ら作り、長い歴史のある伝統を守りながら、新しいものも取り入れていく「ものづくり」に通じるものがあります。

また、総務省では、統計以外にも様々な業務がありますので、興味をもたれた方は、ぜひ説明会等にご参加ください。

PROFILE

平成 8 年 4 月 総務庁採用
統計センター管理
情報処理課
平成 12 年 4 月 統計センター管理部
電子計算室運用第 3 係
平成 15 年 4 月 独立行政法人
統計センター製表部
情報処理課上級製表職
平成 20 年 4 月 独立行政法人
統計センター
情報技術部情報処理課
上級情報技術職
平成 21 年 4 月 現職

とある一週間

- 月曜日 今週は統計調査の公表があるため、係内で公表資料の確認。
- 火曜日 統計データについての問合せ対応。分かりやすい説明を考えるとことで、自身の勉強になることを改めて実感。
- 水曜日 明日の打ち合せ資料の確認。昼休みは久しぶりに同期と外でランチ!
- 木曜日 統計の作成方法等について打ち合せ。現状の把握と今後の対応について検討しつつ、次回テーマを確認。
- 金曜日 今日、統計調査の公表日。今月の公表も無事終了!
- 土・日曜日 友人と郊外の農園レストランへ。美味しい有機野菜を堪能。



郊外でリフレッシュ

人事・恩給局

行政管理局

行政評価局

統計局

政策統括官
(統計推進担当)